2008/03/03 理事会
同 03/22 評議員会

平成２０(2008)年３月　　日

(財) 国 際 仏 教 文 化 協 会

平 成 ２０年 度 事 業 計 画

（財団法人）国 際 仏 教 文 化 協 会
[本部]〒605-0841 京都市東山区大和大路通五条上ル
山崎町 365　妙順ユース・ホール
[実務事務局] 〒522-0069
彦根市馬場一丁目 6-37　佐々木方
℡ 0749-24-1009; Fax 0749-26-5370
Email: iabc@office.email.ne.jp
http://www.ne.jp/asahi/iabc/homepage

海外で他力念仏の教えに出会った念仏者たちの中で、特にヨーロッパ地域では念仏に出会った法友たちが孤立した中で熱心に求道するという状況は現在も変わらない。リーダー的な人たちが一線を退いて世代交代の現象が見られる中で、これまで以上に物心両面の支援が必要である。その継続的な支援のためには基金の確保にも一層の努力を傾けなければならない。そのような趣旨から、本年度も海外の念仏者たちの支援に向け、一層充実した事業を計画・推進するものである。

具体的には、経常的な支援事業として海外の関係機関への援助、欧文の仏教関係図書出版等を継続する。人材育成の一環として奨学助成事業およびヨーロッパ真宗サンガの巡回セミナー･懇談（平成 18 年度新規事業の継続）のほか、平成 20 年度は第 15 回ヨーロッパ真宗会議開催の予定でその全面的支援を行う。また、資産についても、更なる募財に努めることとして、下記のような年間の事業計画を立てる。

なお、公益法人制度の改革がなされ平成１８年６月にその関連の法律が成立し、平成 20 年 12 月には施行されるので、財団の法規その他の整備を進めなければならない。そこで、その制度に沿って当財団法人を整える作業に入る（法規施行以後５年間うちに、新制度による法人に整備しなければならない)。

1. ヨーロッパなどの海外関係機関への助成事業

注：冒頭の（　）内は、それぞれの地域、所属の協会・サンガ、代表者等を示す。各末尾の下線は、本年度の支援事業計画を示す。

① <u>アントワープの真宗協会「真宗センター」(Centrum voor Shin Boeddhisme v.z.w.)</u>
（ベルギー・アントワープ、慈光寺、ペール師；マルテンス氏）

1985 年慈光寺入仏式が厳修されて以来、住職ペール師を中心に精力的な伝道活動が

為されてきたが、ペール師の体調が思わしくないため、フォンス・マルテンス氏（Mr. Fons Martens: IT の教師を退職。慈光寺近くに移転し、慈光寺の管理運営もにあたる）が慈光寺代表を引き継ぎ、寺院活動を行っている（ペール師は'01 年春に入院、2004 年初めに退院したが、それ以来、療養生活）。その活動援助（慈光寺の維持と寺院の活動、地域での伝道、並びにオランダ語の機関誌『ＥＫＯ』等の発行[仏典のオランダ語訳、オランダ語の仏教関係著書などの出版を含む]等への助成）を行う。

② スイスの真宗協会等（Société bouddhique suisse Jôdo-Shinshû = Shingyoji; Myojunji）
（ジュネーブ、信楽寺、デュコール師； ﾓﾝﾌﾟﾚｳﾞｪｲﾙ、妙順寺、ブザンソン師）

信楽寺では、住職エラクル師を中心に寺院活動、伝道活動等がなされて来たが、2005 年 9 月にエラクル師が急逝、デュコール師（Jérôme Ducor : 民族博物館東洋部部長）が住職及びスイス真宗協会の会長を引き継いだ。また、エラクル師のお弟子のブザンソン師夫妻（1988 年 10 月本願寺で得度）が、平成 10 年４月にローザンヌ郊外に家屋を購入し、これを「寺院：妙順寺」に改築、平成 12 年(2000 年) 9 月 3 日「ハリー・ピーパー浄土真宗文化センター」として開所した。信楽寺及び妙順寺の活動拡充に取り組むのに対して、継続して支援する。

③ ドイツの真宗協会 (Buddhistische Begegnungsstätte ShinDo; Jodoshinshu Berlin)
(バートライヘンハル、信堂、モーザー師；ベルリン、ベルリン真宗グループ、エヴァース女史)

1) 南ドイツの真宗協会「仏教道場 Shin Do（信堂）」：（ドイツ真宗協会の一員）

モーザー師（Rev. Thomas Moser：1994 年 10 月本願寺国際センターで得度）が中心となり、平成８年春から集会所を借用、サンガを「Shin Do（信堂）」と命名して、集会所活動（日常勤行、ミーティング、セミナーなど）につとめ、また機関誌（*Shin Do Nachrichten*[信堂通信]：季刊・A4 版）を発行する。その活動援助（集会所借用及び集会活動、季刊誌発行等への助成）を行う。（2008 年３月、ドイツ真宗協会の組織、役員を改新した。モーザー師およびほかの役員と連携を保つことになる）

2) ベルリン浄土真宗サンガ (ベルリン、Jodoshinshu Berlin)：（ドイツ真宗協会の一員）

ベルリンのイローナ・エヴァース氏（Ms. Ilona Evers）が 2000 年春頃、自宅で集会等を始めた。目下、インターネットを活用して真宗教義の勉強、あるいは相互の連絡を密にするなどの活動を始め、目下数名のメンバーがいる。その活動に対して助成する。

④ オーストリアの真宗協会等（ウィーンのコーディテック氏、ザルツブルクのフェンツルなど）

ザルツブルクのフェンツル氏は、「オーストリア真宗協会」の主メンバーで、小規模ながらザルツブルクで集会及び機関誌『*AMIDA*』(Ａ４版）発行などを行っているのに対して助成する。

⑤ 英国の真宗協会等 （Pure Land Buddhist Fellowship グループ、ピム氏）

ジム・ピム氏（Mr. Jim Pym：ケントに在住、雑誌などの編集をする）が中心になり季刊誌ニューズ・レター『Pure Land Notes』を発行し、各地に点在するメンバーの連絡を保ちな

がら、幾度かの会合を持つ。特に季刊誌発行への助成を行う。

⑥ ポーランド関係 （ワルシャワ、アグネス・エンジェエスカ師経由にて）

横浜の光輪寺坊守であったエンジェエスカ師（ワルシャワ出身）を通してワルシャワの真宗サンガから申請があれば支援を計画するが、具体的申請なく助成を計画しない。

⑦ 東欧地域 (ルーマニア、他力道場、クィルレア氏；ハンガリー、コーサ=キス氏ら)

1) 2001 年春頃に文通が始まったルーマニアのアドリアン・クィルレア師（Adrian Cîrlea : 2003 年 10 月本願寺国際センターで得度）は、インターネットを利用しながら、真宗の教えを学ぶ。経済的に極めて困窮する中、幾つかの真宗の聖教や概説書を英訳本からルーマニア語に翻訳、「ルーマニア真宗協会」を設立、レンタル家屋を求め「Tariki Dojo」（他力道場）を開設、さらに「阿弥陀寺」建立を目指す。集会などを持ち、近隣の都市で年間数回の公開セミナーを開催する、その援助（集会所の貸借、セミナーの開催、翻訳作業への助成、寺院建立への支援）を行う。

2) ハンガリーのサンドール・コーサ=キス氏（Mr. Sandor Kosa-Kiss：もと高校の英語教師）は、2000 年 11-ESC（デュッセルドルフ・恵光寺で開催）で帰敬式を受けた。『歎異抄』などのハンガリー語訳に取り組んでいる（昨年秋には仏教伝道協会刊の英語版『仏教聖典』をハンガリー語訳し、発刊された）。病気の家族（母親、妻）を抱えているようだが、その中で翻訳などに努めているのに対して支援を行う。

⑧ ケニア真宗サンガ（ケニア・キシイのオペンダ医療センター、オサカ氏夫妻）

オペンダ医療センター（オペンダ真宗病院）への援助は、その活動内容の吟味が必要であり、全面的援助となると援助金が膨大になるという問題もあり、支援いただいている本派本願寺との連携も必要。まだその結論を得ず、援助については検討中だが、本年は現状を調査して、援助の再開を期する。

⑨ オーストラリア（南オーストラリア、ゲイテンビー師）

ゲイテンビー師が中心になり、その法友パラスケボポラス師（いずれも 1994 年 10 月本願寺国際センターで得度）と協力して機関誌『*MUGEKO*』（無碍光）を発行する、その助成を行う。

なお、メルボルンに真宗サンガが誕生しつつある（パラスケボポラス師の報告）。活動状況などがいまだ不明であるが、確認でき次第、援助も検討したい。

⑩ アラスカ（米国・アラスカのアンカレッジ、White Lotus Center for Shin Buddhism、ファン・パラース師）

ベルギー・アントワープの慈光寺でペール師に師事し 1994 年 10 月、本願寺国際センターで「外国人得度習礼」を受けたファン・パラース師（Rev. Bruno Van Parijs）が、夫人（Rev. Diane Johnson-Van Parijs：2003 年 10 月本願寺国際センターで得度、現在、初めての仏教徒教誨師としても活動）とともにアラスカに居住して「伝道」を始めた。自宅を「サンガ道場」

として開放し、1999 年夏に、「非営利」の団体としてアラスカ州で承認されるに到った。アントワープの慈光寺活動の一端を担っているという点で、慈光寺と同様にその活動助成を行う。2004 年秋には、寺院「妙光院」（真宗白蓮華センター）と名乗り、さらに伝道活動を充実させているのに対して、活動援助を行う。ブルーノは米国永住権を持たず、２～３年で一時帰国している（現在は、昨年春～本年 9 月まで、帰国中）。

2. 出版事業

① 本協会の機関誌『国際仏教文化協会ニュース』（*IABC News*）を原則として年間２回発行する。場合によってはその一回は『IABC 報告』によって支援者に報告する。
② 欧文真宗信仰誌『シンブディスト』（*Shin Buddhist*）を継続発行する。
③ 英訳『妙好人のことば』（仮題）や『ヨーロッパの妙好人―ハリー・ピーパー師』改訂増補版、日本語訳の出版などにも取り組む。
④ 卓上カレンダー2008 年版：海外向けに仏画・法語を挿し絵とするものを出版する。
⑤ その他、図書（欧文、日本語）出版の必要が生ずれば、そのつど企画する。

3. 奨学助成事業

1987（昭 63）年発足の「仏教文化・学術交流基金」事業の一環として、人材育成事業、すなわち、

① 海外から日本に留学して仏教思想・仏教文化を学ぼうとする者を招聘奨学生、
② 日本から海外に出て国際的視野から宗教・文化を学ぼうとする者を派遣留学生

として、それぞれ採用し、奨学助成する。

新たな取り組みとして、学習・研究の内容をある程度しぼって奨学生募集を企画、短期留学の希望が出るとの可能性を鑑みて、予算上、それぞれ１～２名を予定する。

4. IABC研究会事業

念仏サンガや仏教(真宗)の信仰に関わる図書類の欧文から日本語へ、日本語から欧文への翻訳、ヨーロッパの念仏サンガ・メンバーとの交流(文化交流、仏教思想の意見交換)、その他の研究活動を推進するという目的で数名の研究員を採用して実際の研究会活動を発足させたのが 1987(昭 62)年である。それ以来、若干遅延しながらも着実に成果を積んできた。

本年度は、下記の研究員 10 名、校訂担当の研究員 1 名、合計 11 名を研究員として、統括者（佐々木恵精）のもと、

① 真宗信仰誌 *Shin Buddhist* の継続編集、
② 英訳出版（『妙好人のことば』など）、日本語訳（『得度習礼を受けて』『ヨーロッパの妙好人――ハリー・ピーパー師』改訂増補版など）の出版、
③ 卓上カレンダー作成、
④ 「英語による真宗入門セミナー」(開始から５年目：シリーズとして数回開催)

などを計画、推進する。

本年度の研究会メンバー（研究員）:（2行目以下五十音順）

[佐々木恵精（当協会理事・事務局長、京都女子大学教授）＝統括者として]

石田　法雄（当協会評議員、滋賀県立大学教授：英語関係）

柏原　信行（当協会評議員、龍谷大学講師：英語関係）

清基　秀紀（当協会評議員、龍谷大学・京都女子大学講師：英語関係）

寺本　知正（当協会評議員、NCC 研究員：英語関係）

飛鳥　寛静(善興寺衆徒：英語関係)

島津　恵正(龍谷大学職員、英語関係)

ベティーナ・ラングナー＝寺本（寺本夫人、京都女子大学講師：ドイツ語担当）

渡邉親文（龍谷大学･京都女子大学講師：英語関係）

森脇　正史（龍谷大学講師、英語関係）

禿　定心（かむろ　じょうしん：龍大大学院：ドイツ語･英語）

英文校訂担当として

田中ケン（Rev. Prof. Kenneth Tanaka。武蔵野女子大学教授：英語総合校正を担当）

なお、次世代への継続を鑑み、新規の研究員採用（１～２名）を検討する。

５. 特別事業:欧州各真宗協会の巡回、及び第 15 回ヨーロッパ真宗会議

① 平成 18 年度新規事業として、ヨーロッパの各真宗協会、真宗サンガなどの視察巡回を開始（前年度はベルリンとベルギー・アントワープを巡回)、真宗セミナーなどを開催する。日本からの派遣員によって、念仏を通して親睦をはかるとともに、欧州の念仏者たちの現況を知る機会とする。本年度は、第 15 回ヨーロッパ真宗会議開催にあたり、バートライヘンハルとザルツブルクの巡回とする。

② 第 15 回ヨーロッパ真宗会議（ESC15）の支援：南ドイツ・バートライヘンハルにて、信堂サンガ（主宰：トーマス・モーザー師）のもとで開催予定。フォンス・マルテンス（アントワープ・慈光寺）とクランマー（ザルツブルク：禅宗系）とが協力、これら 3 名が議長団となって開催運営にあたる。その全面的支援を行う。

以　上、　事業計画（了）